

# 平成26年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査-4号)

農林総合研究センター  
平成26年6月18日調査

## 気象経過

1. 6月第2半旬の平均気温は、金沢、輪島ともに平年に比べかなり高かった（金沢：+2.5℃、輪島：+2.7℃）。日照時間は金沢で平年並、輪島で少なかった（金沢：95%、輪島：84%）。降水量は金沢、輪島ともに平年に比べかなり少なかった（金沢：41%、輪島：4%）。
2. 第3半旬の平均気温は金沢で平年並、輪島で高かった（金沢：+0.3℃、輪島：+1.0℃）。平年に比べ日照時間は金沢、輪島ともに少なく（金沢：91%、輪島：78%）、降水量は金沢、輪島ともかなり多かった（金沢：441%、輪島：409%）。
3. 6月12日発表の向こう1か月の予報では、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、平均気温は平年並の確率が40%、降水量は並～少ない確率が40%、日照時間は並～多い確率が40%の見込みです。

## 生育概況等

### 【生育状況】

1. 葉齢  
コシヒカリが加賀地域で平年に比べ+0.3葉、能登地域で平年に比べ+0.4葉、ゆめみづほが加賀地域で近年に比べ+0.4葉、能登地域で+1.0葉となっており、前回調査からの1日当たりの葉齢展開は平年に比べてやや速く、生育はコシヒカリで2日、ゆめみづほで3～6日程度早い。
2. 草丈  
コシヒカリが平年比103～127%（平均115%）、ゆめみづほが近年比108～131%（平均119%）といずれも長い。
3. m<sup>2</sup>当たり茎数  
コシヒカリは、加賀地域が平年比88%（前回調査99%）で平年に比べやや少なく、能登地域が平年比101%（前回調査111%）で平年並である。また、ゆめみづほは、加賀地域が近年比96%、能登地域が近年比104%で平年並である。前回調査よりも茎数の増加程度は平年並～やや少ない。
4. 葉色  
コシヒカリ、ゆめみづほとも平年並～やや淡い圃場が多い。

### 【病害虫の発生状況】

1. 雑草で飛翔性カメムシ類が確認されている。
2. 6月5日～14日にかけて11カ所中6カ所でBLASTAMによるいもち病の感染好適日が出現した。

## 当面の対策

1. コシヒカリの分げつが旺盛となっているので、遅発分げつの発生抑制、稈数過剰防止のため中干しを継続し、5月20日までの移植で中干しを実施していない圃場では、直ちに実施する。
2. 5月20日以降の移植ほ場においては、生育が平年より早く分げつも旺盛となっているので、移植後30日を目安に中干しを開始する。
3. 排水をスムーズにし梅雨期間中の中干し効果を高めるため、溝切りを実施する。なお、溝切り間隔はほ場の排水条件に応じ、10～15条間隔とし、末端を排水溝に接続する。
4. 早生は、幼穂形成期を迎えるので中干しは6月25日までとし、以後、間断通水を行う。
5. 用水量が十分確保できない地域においても、根の活力向上を図るため、田面の亀裂が生じない程度に中干しを実施する。

6. 稲体の健全化を図るため、ケイ酸質資材を未施用のほ場では直ちに施用する。
7. 早生の生育が早まっているので、幼穂を確認し穂肥の時期を逸しないようにする。なお、1回目の穂肥は幼穂1～2mmを確認し施用する。
8. 斑点米カメムシ類の発生密度を下げるため、生息場所である畦畔や農道の除草を徹底する。除草を集落など地域全体で一斉に実施すると密度低下の効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。
9. 葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
10. 過去に白葉枯病が多発した地域で予防剤を箱施薬していない場合は、予防粒剤を6月20～30日に散布する。